

半世紀前にアフガニスタンから持ち帰り、横浜市立大の木原生物學研究所(横浜市戸塚区)が保存していた小麦の種を「帰郷」させて、戦争と干ばつで荒廃した土地に豊かな小麦畑をまみがえらせようというプロジェクトが進んでいる。現地の試験場で栽培されている小麦は黄金色に実りこの夏、初めての収穫の季節を迎えた。

半世紀前の種が「帰郷」



アフガニスタンの種から改良した小麦を採集する横浜市立大の坂智広教授(左)とアフガンの研究生ら=6月26日、横浜市戸塚区

アフガニスタンの種から改良した小麦を採集する横浜市立大の坂智広教授(左)とアフガンの研究生ら=6月26日、横浜市戸塚区

育てて種子を採取し保存し

同研究所は約6千種の小麦の種をマイナス約20度で保存する設備を持つ、国内有数の種子バンクだ。「保存状態が良ければ100年前のものでも芽が出

る。種はまさにタイムカプセルなんです」。プログラムの一つで、坂智広教授らが2011年にアフガニスタンの種から改良した小麦を採集する横浜市立大の坂智広教授(左)とアフガンの研究生ら=6月26日、横浜市戸塚区

使用した種は1995年、研究所の創設者で遺伝学者の故木原均博士が、小麦の祖先を探るために訪れたアフガニスタンの種から改良した小麦を採集する横浜市立大の坂智広教授(左)とアフガンの研究生ら=6月26日、横浜市戸塚区

第2246回関東・中部・東北自治会くじ

1等(1億円)

56組	152687
50組	188701

1等の前後賞(500万円)

1等の前後の番号

1等の組違い賞(10万円)

1等の組違い同番号

2等(500万円)